

納本

611

獨逸の國內事情に就いて

陸軍大佐 飯島正義氏講演

東亞研究所

特 245

313

料(外乙)第四十九號B

(昭和十八年九月印刷)

1



0000909000

0000909-000

特 245-313

獨逸の國內事情に就いて

飯島正義・〔述〕

東亞研究所

昭和18

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

講演者 陸軍航空本部 飯島正義氏
講演年月日 昭和十八年四月七日
講演場所 東亞研究所

特245

313

（一）

皆さんも既に御承知の通り目下の獨ソ戦線は一勝一敗の恰好で戦争を續けて居りますが、之が將來どうなるかといふことは之は所謂今後のドイツの全力國力がどうなるかといふ觀方によつて解決のつく問題、かう考へて居ります。それで今日のドイツ國內の所謂國力並に戦力はどういふ恰好であるかといふお話を申上げ度いのであります、まづ第一に國力の増大をなすのは國家の結束であります、その結束がどういふやうに動いて居るかといふやうなことを申上げ度い。

國內結束の増大と致しまして忘れてならないのはナチが天下をとつて十ヶ年、所謂天下をとりましてから皆さんも御承知のやうにヒットラーは青年隊の教育を開始致しました。これ等の青年隊の人々の年齢も既に廿七、八歳になつて居ります。即ち三十歳以下の青年層はナチの思想、世界觀を充分に教育を受けました處の國民層でありまして、この教育を受けた青年層といふものはチツとヤソツとで簡単に動くものではないと考へます。それは私が茲で皆さんに申上げる迄もなく蔣介石軍の状態を見れば明瞭であります。それと同様にかういふやうな觀念でもつて教育された人々が簡単な宣傳や何かで動くものではないと考へるのであります。之は敵國側に於ける宣傳資材であります。米英側がどういふ宣傳をして居るかと申しますと、假りに戦争に若しも勝つたならばドイツの子供は全部とり上げて、そして之をアメリカに連れて行つて自由主義教育をする、と盛んに宣傳をやつて居ります。さういふことをしないで、上、彼等ドイツが敗戦の憂目に遭つたと假定致しましても、又再び起ち上るであらうと思ふ、此の様に國民教育が徹底してゐる青年層丈にナチの世界觀にコチ／＼になつてゐる人間であるといふことを忘れてはならない、之が國內結

東の強みであります。さういふ風な青年層をもちましてどういふことをして居るかと申しますと第一には舊大戦以來國內に居つた異分子の放逐であります。舊大戦に於てドイツが崩壊した原因は種々のことがあつたのでありますが、その中でも大きな原因と考へられるものはまづ共産分子であり、ユダヤ人である、之に對してナチが政權をとりまして以來、徹底的に放逐運動を始め實際に放逐して居る譯であります。今更申上げる迄もなく共産分子といふものは徹底的に國外に追ひ出され、又國家意識のないユダヤ人も徹底的に壓迫され大人も子供も左の胸に布切を張りつけて、三角を二つ合せた六角形のやうな黄色な布をつけて居ります。それでないと國內のものも安心が出来ない、さういふ恰好で異分子の放逐といふことを徹底的にやりました。

〔II〕

開戦前年の一九三八年頃はこの異分子の放逐運動は最高調に達して、我々から見ますと少しやり過ぎと思はれる位で例へば全國のユダヤ人の全商店は一夜の中に破壊され其の商品は街上に投げ出された程ユダヤ人は徹底的に壓迫を加へられて居た譯であります。従つて現在に於てはまだ若干ナチの世界觀に共鳴しないやうな人間が居るかも知れませんが、大體に於て全ドイツ國民はナチの世界觀に共鳴しそして國內の團結といふ點から見ますと異分子は殆どない状態であります。尤も之等ナチの世界觀を徹底せしむる爲には今日日本でやつて居ります隣組制度、之が從來から徹底して居る譯であります。昭和十三年に私は此方を發つたのでありますが、その當時日本には隣組制度はありませんでしたが、ドイツに参りました時に既に隣組制度が立派に出来て居りました。どういふやうな恰好かと申しますとドイツではベルリンのやうな大きな都市は六階建に統制されて居ります。やはりアパートであります但其の入口に門番

が居りました其處から入つて二階、三階に上る譯であります、各階に二軒から四軒の家があります。之等の家全部でもつて隣組を編成して居る譯であります。隣組長は誰がなつて居るかと申しますと、所謂ナチの黨員がなつて居ります。その建物の中に住んで居り、之は政府の要望であります、之が主となり各種の事をなさしめ寄附金品の蒐集とか或は今日は旗日だから旗を出せといふ風に指導してゆく、詰り隣組團體運動の指導をやつて居る譯であります。同時に萬一この隣組内に、ナチの世界觀に反するやうな異分子があつたならば之を教化善導するといふやうな仕事をして居ります。さういふやうな具合でありますから國民層全般はナチの徹底した指導の下に全般が握られて居りました之が爲に國家がバラ／＼にならない、勝手なことは出来ないやうな組織になつて居ります。

〔III〕

又企業に就いてはどうかと申しますと、各企業の中には社長の片腕となる勞資仲介人制度を設けて居ります。之は御承知の通りS Aの突撃隊の人間であります、この突撃隊員を各製作所に一名設置致しまして、そしてこの人間が社長の片腕となつて總べての企業製作所内に於ける勞働條件の樹立、生産能率の改善等、勞資協調といふやうなことを一人で切り盛りして居る譯であります。その隸下に所謂幕僚組織の様なものがありまして種々の課班があります、例へば職業教育係、青少年係、婦女子係或は福利、宣傳係といふやうになつて居ります。又之等各課班は製作所内全工場に對して各工場勞資仲介人を長として隸下組織を持つて居り更に一個の工場内では一つの仕事の範圍、例へば旋盤、或は鑄工、板金といふやうな職場毎に隸下組織を持ち結局、末端に於ては十人乃至十五人といふやうな細胞になつて居るといふやうな具合でありまして、之等細胞を統制して居るのは突撃隊員の製作所勞資仲介人で所謂ナチの世

界觀にコチ／＼の黨員であります。さういふ状態でありますから企業自體罷業をやつたらサボタージュをやるといふことは絶対に考へられない、米英系の宣傳ではドイツの何處かの工場がサボタージュをやつたといふ様なことをいつてゐますが、之は勿論デマ宣傳でありましてさういふことはドイツの企業の中にはあり得ないことであります。國民層の全般に細胞組織を作り企業に於ては今のやうな細胞組織を作り、更に一步進めて所謂商工業の統制に手をつけ商工會議所制度の改正をやつて居ります。即ちドイツの商工會議所は自由主義經濟機構の遺物として一九四二年の春迄存在し聯邦内各國商工大臣の隸下にありました、之を極言して一口に申しますならばドイツの商工企業の統制は地方分權的な中央集權であつたのでありますが、中央集權、統制の一元化を基調とする、ナチの企業統制の原理と衝突する場合が非常に多いのでありまして、實にやり悪い状態であります。その爲に一九四二年四月廿日に法令を出して從來存在して居つた商工會議所、手工業會議所に全部解散を命じ、之に代つてナチの黨治區經濟會議所を設置した。そしてこの種の機關を全部ナチ一色に塗り替へてしまつた。之は從來のやうに行政地區毎に一つ宛設けたのでなく、ナチの黨治區に一つ宛設けたのであります、かういふ風に考へて参りますと、ナチの細胞組織といふものは上から下迄國內に徹底して居るのでありまして、この組織下に於てはナチの社會觀に反する思想をもつてゐる人間が居ると假定致しましても、現在に於ては身動きも出来ない状態であります。さういふ状態でありますからナチが潰れない以上國內に動搖が起るといふことは絶対に考へられない、更に國內に動搖が起る一つの原因としてナチと國防軍との相剋が考へられ、平時に於てはさういふ句はあつたやうであります、開戦後は全く一體となつてさういふ氣配は全然ありません。しかも國民全般の國防軍に對する處の信頼は實に鞏固でありまして、ナチ黨に對して惡口をいふ人間があ

つたとしても、國防軍に對して惡口を云ふ人間は何處に行つてもない、のみならず國防軍は全く政治を離れて戦時下の國防に任じて居る。従て國防軍に對する信頼といふものは絶対であります。この國防軍がナチ黨と手を繋いで國難に當つて居るといふ現状から見ましたならば國防軍とナチ黨との相剋、喧嘩といふことは今の處考へられない。萬一ヒットラーが死ぬやうなことがあれば、日本で云へば例の織田信長の死んだ後のやうなことがあるかも知れませんが、總統が死なない限り國內に動搖が起るといふことは絶対に考へられないのであります。

〔四〕

更に國內結束を鞏固ならしむる點に於て見逃し得ない二つの政策があります。それは御承知の通り物資の公正なる分配と不當利得の嚴禁であります。之は舊歐洲大戰に於てドイツの國內崩壊を來しました理由の一つと謂はれて居るものでヒットラー自身第一線の塹壕の中から國內を振り返つて見ました時の體驗でもあります。即ち第一線の將兵が國內を振り返つて不愉快な感じを懐くのは、國內の物資の不公平分配と戰爭を利用して不當利得をする者がある事である、従て今次大戰に於ては絶対に之はやめなければならぬといふのがヒットラーの念願である。その爲にこの二つの政策を今次は特別に徹底的にやつた譯であります。

物資の分配はどういふやうな恰好でやつて居るかと申しますと各地方長官の下に地區經濟官吏と地區食糧官吏があり更に地區經濟官吏の隸下に市町村經濟官吏、地區食糧官吏の隸下に市町村食糧官吏があります。市町村經濟官吏は何をするかと申しますとその市町村の商工業と其處に住んで居る國民との間の商品需給調整に任ずる譯であります。具體的な例を申しますと衣料切符或は家具類の分配、さういふやうなことを擔當する譯であります。市町村食糧

官吏の方は食糧品の生産企業と國民との間の食糧需給の調整に任ずるのでありまして、この方はバターとかパンとか各物資の分配の役目をする事が仕事であります。開戦と同時に只今申しましたやうな機構を作りまして、そして飲食物並に衣料品家具といふものゝ國內分配を始めた譯であります。その分配のやり方は最低生活の保證といふことを基準としてそれを根據としてやつて居る譯であります。やり方と致しましては生活必需品である飲食物、主にパン、肉、バター、さういふものに對しては所謂切符制であります。あつてもなくても生活するに大した影響のない程度のものに對しては、日本で現在やつて居るやうな分配制であります。従つてこの切符と分配制の間に於ては闇の存在状態が非常に違ふのであります。勿論ドイツに於ても闇に對しては徹底的に處罰を加へるのであります。この切符制のものには絶対に闇はないといつて良い、どうしてさういふこととなるかと申しますと、例へば肉は切符制であります。賣る者も賣り上げた肉の切符を納めなければ次の商品としての配給が貰へない、つまり切符を引き換へに卸し商から肉の配給を受けるわけです。だから切符なしに闇に流す事が出来ないのです。處が分配制のものには相當闇があるのであります。それはどうかと申しますと例へば飲食物の分配制にはどういふものがあるかと申しますと、ドイツ人は非常に牡蠣、日本の牡蠣に似たものでありますが、あれを非常に珍重する、日本の伊勢蝦に似た蟹がある、かういふものはドイツ人の非常に珍重する食物であります。處が之は戦前から相當値段の高いものでありまして、國民層の一般に分配する程の量はない、かういふ風なものは食物に於ても分配制であります。さうした食糧は切符に番號がありまして今日は一番から二百番迄買へる、明日は二百一番から四百番迄買へるといふやうに各商店に張り出して、その間の番號をもつてゐる家庭の人間は配給を受けて買ふのであります。さういふ品ものは値段が高い、従つて必

ずしも國民層が平時から全家庭で喰つて居つたとは云へないものでありますから、配給の日が出来ましても買はない人間が出来る譯であります。かういふものは所謂切符と引換でないので賣る方も買ふ方もどれ丈の量をとつてどれ丈賣つたといふことについて胡麻化しがきくのでさういふものは相當闇があります。之は否定出来ない事實であります。又衣服類については今の日本と同様に點數切符制でありまして之は勿論闇の仕様はない、之は殆ど闇といふものは認められない。又革、靴その他のものについては點數も切符もない、靴は壊れてしまふ迄、壊れたらそれをもつて市町村經濟官吏の處に参りまして、この靴はこんなになつて修理出来ないから切符を呉れといふことを申し出る、さう致しますと點檢した結果事實修繕もきかない状態ならばそこで始めて切符をくれる、それを持つて行つて靴と替へる状態でかういふものについては殆ど闇の存在する餘地がないのであります。

以上のやうに考へて参りますと實際國民の最低生活に必要なものには殆ど闇はない、貧富の別なく公平に分配されて居る恰好であります。これ等の點に於ては舊大戰の状態と現在のドイツ國民は非常に違ふのでありまして、又國民層の間にも不平も起らず順調に團結を保つて居る状態であります。

〔五〕

もう一つ不當利得の嚴禁、之は開戦三日目、九月三日にヒットラーが、もしも戦争を利用して不當利得をする人間があつたならばその人間はその前に首を失ふであらうといふことを命令致しました。之に對しては實に徹底したやり方をして居ります。第一は個人に對して不當利得はどういふ風に嚴禁して居るかと申しますと、官吏、軍隊に對しては日本同様俸給令があります。一般會社員或は従業員に對しては平時より俸給令に相當する賃率規程といふものがあ

りまして初任級日給何錢でどういふやうな具合に昇給するといふことが詳細に規定されて居ります。又會社の職工に致しましても種類によつて初任級はどういふ具合になつてどういふやうな具合に俸給が上つてゆくといふことは陸海軍或は官吏の俸給同様に詳細な規定があります。この賃率規定による以外の増俸増給は嚴禁された譯であります。従つて戦時だからといつて俸給を上げる或は賃金を上げて労働者の奪ひ合ひをするといふことは絶対に出来なくなりまして。假りに私が何處かの高等工業を出てある會社に勤めて現在百五十圓の月給を貰つてゐると假定します、そしてもう少し月給の高い工場にゆき度いといふ譯で轉任致しますと、その資格の初任級、高等工業を出ました初任給七十五圓で就職しなければならぬ。以前の月給を基準として月給は上らないのであります。従つて現在の職場に働いて居る方が割が良いので他所にゆき度いといふやうな動搖は絶対に起らない。一年でも二年でも働いて居れば賃率規定により若干宛上つてゆくのであります。ですから職場を替へたならば始めから月給をやり直す譯であります。又私が徴用工となりまして何處かへゆかなければならない場合でも徴用工の日給は其處の職場で徴用工獨逸で謂ふ補助工としての日給を貰ふのであります。過去の収入には何等の關係が無いのであります。斯くの如くして個人の不當利得を嚴禁致しました。之は國內に於ける全勞務を戦線に於ける兵士の勞務と同様に考へる所以でありまして、戰場に於て各兵士は單に勞力を提供する丈に止まらず命迄提供して居る、國內に於ては單なる勞力を提供する丈で戦時に平時以上の収入を取らうといふ考へは間違つて居るといふ考へ方でありまして。さういふ状態でありましてから現在ドイツに於ては戰爭を利用して各個人が不當利得をするといふことは一切不可能な状態でありまして、勞務者は平時は八時間労働であります。戦時は十時間となるといふ譯で賃金は増えてゆく譯であります。之に對しては増加所得と致しまして特別

の税金をかけてかういふ金は取上げるやうにして居ります。どういふ恰好かと申しますと戦前一九三八年度の所得税査定時の収入より現在の収入が一五〇%以上になつて居つた者は超過した額に對して二五乃至三〇%の特別税をとる、従つて戦時に於ける各個人の不當利得、金儲けをしようといふことは殆ど不可能であるのみならず、開戦と同時に所得税戦時附加税が五〇%に達するやうな状態となり、各會社の課長級以上のものは殆ど全部が最高税額である収入の六五%を税金として納めて居る状態でありまして。之等各種の政策から見まして凡ゆる制度を利用して個人が不當利得を致しましたり、金儲けをしようといふことは殆ど不可能な状態でありまして。前線の兵士が國內を振り返つて見て自分達が徴集されて戦線に出て居る間に國內では不當利得で金儲けをして居るといふ觀念を起させない状態でありまして。これは個人であります。企業に對してはどういふ風なことをやつたかと申しますと、第一は物價の制定であります。

〔六〕

物價に就いては獨逸には平時から物價制定委員會といふものがありまして、法律で嚴密な規定によつて物價を制定致して居りまして絶対に國內の物價を戦前より上げない、第二は國家が軍需品を購買する場合其の購買價格を適正にして、各軍需工場に對して不當利得を許さない。

舊大戰に際し企業が不當利得をしたのは政府が購買價格を上げたからで無く寧ろ價格を下げたにも拘らず大量生産に依る生産「コスト」の下りの方が大で従て軍需工場の利潤が増大したのである、その結果に鑑み今次大戰に於ては軍需品の購買價格制を旨い具合に決めまして不當利得の出来ないやうにやつて居ります、どういふ價格制かと申し

ますと毎年度末に於て各軍需工場の原因査定をする、例へば今年の年度末に一ケ年間に生産致しました軍需品の生産原價の査定を致します。そして實際のコストに對し一定の利潤を加へたものを購買單價とする。之をもつて來年一年間買つてやる譯であります。従つて企業の生産コストを下げれば本年一年間は相當利潤を上げるのでありますが、本年の年度末になりますと、もう一度生産コストの査定をやる、その時の價格をもつて再來年の購買單價を決める、來年一ケ年間努力した報酬は單に一ケ年間儲かるのでありまして、第二年度以後はその恩恵を受け、事が出來ない、従つて企業は長い間不當利得を得られない恰好であります。斯くの如くして軍需品の購買價格を適正ならしめ各企業の儲けを少くして居る、しかし企業の全般的資本の回轉率が平時より増大して居るのは否定出來ない事實でありまして、従つて利潤も増大して居るわけですが之等の利潤を研究とか施設の鎖却とか或は従業員福利施設といふものに使はれて居ればよいが之を社外に分配する、株式配當するならば之は國內の動搖する一つの原因になる譯であります。之に對しては配當の制限を徹底的にやる譯であります、どういふ恰好で配當制限をやるかと申しますと一般に現金配當は六分とし、六分以上の配當する場合は超過額の全部を大藏省の證券に替へて株主名義で之を保管しなければならぬといふことになつて居ります。之を株主に分配する時期は經濟大臣が別個に指示する。何時指示するか明示して居りませんが恐らく戦後になつて分配されるのであらうと思つて居ります。更に六分以上高率の配當をする會社に對しては株主に利益をやると同時に國家にも利益をやる主義であります。即ち六分以上を配當する場合は國家に對して國庫納附金を納めなければならぬ、その率は筵棒に多いのであります。具體的に申しますと七分の配當をする場合は標準配當額を超過する一分に對して五〇%の國家納附をしなければならぬ、八分の場合は超過額の一〇〇%

%、九分の場合は二五〇%、二割の場合は三〇〇%一割以上の場合には四〇〇%、さういふことで假りに一割二分の配當を致し度い會社があつたならば超過額の六分の四〇〇%、即ち二割四分で詰り合計三割六分の配當となる譯で、先程申しましたやうに國家の購買價格が適正に決められて居るなれば斯くの如き高率配當をする様な利潤を得る事は到底不可能と考へられ、法律は制限致しません。が制限したと同様の効果を收めて居る、斯様にして企業の不當利潤不當利得を抑制する譯であります。

〔七〕

更に戦争を利用致しました處の不當利得として所謂株式市場に於ける思惑がある、之によつて金を儲けるものも相當出來る譯であります、之も抑壓しなければならぬ。元來ドイツの株式は最低價格には殆ど變化なく上値は變動して居ります。従つて株式思惑を防止する爲には上値を抑へればよい、之れがため一九四〇年末日の株式價格を以て政府は二〇萬「マルク」以上の株式所有者より任意に株式を買入れ出來るやうな法律を設けて居る。

それでありましてから株式思惑のしようがない、思惑をして段々株を釣り上げてても社會に害があると認められた場合は元の安い値段で強制的に買上げられ却つて損をする恰好になるのであります。さういふ状態ですから市場の動搖がなくなつた、一面に於て株式市場の不當利得を防止し株價の安定を得て企業に對する資金の吸収を非常によくした。さういふやうなやり方によつて國內に於ける戦争を利用する不當利得を實際的に嚴禁した譯であります。

一概にさう申しますとドイツの政策は個人の利益を無視して出鱈目なことをやつて居るやうな氣が致しますが、必ずしもさうではなく、元々ドイツの企業は日本の企業とは非常に違ふのでありまして、ドイツの企業消却は實に徹底

して居ります。その爲に公稱資本は非常に多く實際資本は非常に多いのであります。ですから此の種の會社に迄一律に六分の配當に制限する恰好でゆきましたならば國民の利益を非常に阻害する譯であります。之は又一面に於ては國民の不平を買ふ譯でありまして、かういふ減茶をやつた譯ではなく資本の是正を許しました。どういふことかと申しますと、實際資本と公稱資本に差額のあるものはこの際實際資本を公稱資本に直せといふことであります。法定積立金を除いてそれ以上の實際資産は會社が任意に株式に移して良い。

株式に移したものは現在株主に比例分配して良いといふことにしたのであります。その爲に株式配當は非常に減りましたが株数は増えたのでプラス、マイナスで株主は大して不平もなく我慢する程度のやり方であります。さういふことをやりまして國內の不當利得を全部抑へた、さういふ状態でありましてから國內の結束といふ點から申しましたならば前線と國內との間がお互に不可分な氣持となり個人感は全部除かれて現在は非常によくなつて居ると考へられる、かゝる状態でありますから舊大戦のやうに國內からドイツが崩壊し始めるといふことは差當つて考へられないのであります。

〔八〕

さういふ風な國內結束をもちまして戦時經濟は運用される譯であります。戦時經濟運用について一番根本は物資と生産施設と勞力問題であります。この物資はドイツは自分の國で戰爭せず逐次他所の國をとつてそこにあつた物資を使へることになつた外、食糧の自給状態は昨年暮は八三%、ドイツ國內に於て自給して居ります。更にウクライナ方面が手に入りまして穀物、肉類迄入ることになるとすると、ドイツ國內に於ける食糧はまづ大した不安は殆どな

い。日本とドイツを比較して見ますと、食糧の絶對値といふものは日本が勿論多いと思ひますが、實際に生活の状態を見まして私が自分自身飯を食つてゐることから申しますと、もう一邊ドイツへゆき度いと思ふ位で、食ひ物についてはドイツでは樂に食ひものが食へます。之は配給のやり方がよいからであらうと思ふのであります。ドイツが後に食糧に困るといふことは今の處差當つて考へられませんが、肉に致しましても現在一週間三百五十瓦配給して居ります、之はどの位の量かと申しますと一週間の中、火曜と金曜とは肉なしデーでありまして肉は食へないのであります。木曜は戦線日でありまして戦線の將兵同一の食事をしろといふ日であります。この日は肉をやめて野菜の中に肉を若干刻み込んだもので多量には食へない、後の始の四日間は平時並の食事が出来るのであります。この四日間に日本人ならば一日一回すき焼が出来る位の肉の量であります。ではパンはどうかと申しますとパンは一日三百五十瓦呉れて居ります。三百五十瓦と申しますと相當なパンが七つであります。私など朝は二つあれば充分ですし、一食に二個あれば充分で七個あれば一個は餘る位です。ドイツ人は大食ひですから之では不足ですがその不足分は馬鈴薯で腹が脹れる、さういふ状態でありますから食糧に困るといふ點は今の處考へられませんが、勿論贅澤なものが餘分にあるといふことは考へられないのであります。まづ肉とパンを食つて生きてゐる分には何とかやつてゆける状態であり

ます。ドイツの一ケ年の肉の消費量は約二百四十萬噸、その中約八十萬噸程度が第一線に行つて居る譯であります。重要食糧を統制致しまして非常によく行つて居るのであります。が、一步國外に踏み出しますと肉の統制も穀物の統制も全然して居ない所があります。例へば「スロバカイ」や「ハンガリヤ」もさういふ風な統制は全然して居りません。

スイスも同様で食ひたい放題であります。只食物については一日四回以上は許されない、一日三回分の食券を一枚やつて幾ら食つても無制限であります。斯の様にドイツの周囲の國に於てはドイツ以上に之等の食料品は相當豊富でありますから、之をドイツの勢力圏内として皆く統制することになれば食糧は困るといふことは考へられない、又食糧統制のやり方も實に皆くやつて居ると思はれる、開戦と同時に非常に國民が興奮して居る時期に猛烈に切り下げをやり。それから以後段々に食糧品は増して居るのであります。肉、パンも増えて居る、國民一般も今次戦争の長延くことによつて段々窮屈になる感じはない、何處かを占領すると少し宛よくなつてゆく、この分でゆけば何處かを奪れば又増えるであらうと非常な希望を以て今次の戦争を遂行して居るのであります。

〔九〕

更に物資といふ點から見ましても軍需品の生産に必要な鐵はどういふやうな状態になつて居るかと申しますと、戦前、所謂開戦時の一九三八年のドイツの鐵生産量は二千百萬噸位、それが昨年は約三千九百六十萬噸位になつて居り、約四千萬噸、勿論數字はドイツ政府の發表であります。が開戦前の約二倍迄は鐵が出て居ります。

石炭は開戦前三億八千萬噸位の出炭量が昨年に於ては約五億噸位になつて居ます。この石炭は掘ればまだあるのですが掘り出す労力と運搬資材の不足とが問題となるわけで延いては電力不足となつて居ることは言を俟たないのであります。その上イタリーもスイスも勿論ドイツから石炭をやらなければ冬が越せない。フランスも同様であります。所謂ドイツの勢力圏内を賄つてゐるのでありますから、かういふ風に相當量増産になつて居つても石炭に對しては相當窮屈であります。その爲に獨逸の如く電力の大部を火力發電でやつて居る國に於ては石炭不足が延いては電

力不足となつて居るのであります。しかし電力も増産されて居る事は勿論で戦前は五百六十億キロワット位でありましたが昨年は八、九百億キロワットといふやうな數量になつて居り、著しく増産して居る。しかし電力は非常に窮屈になつて居る、孰れにしろ戦争で焼けぶるといふとをかしいのであります。が、戦争繼續と共に總ての生産量が増大して居る状態でありまして、差當り困るといふ状態ではありません。勿論ニッケル、銅といふやうなものは殆どヨーロッパには出ないので困つて居るのであります。が、さういふものは鐵を主體として他のものに置き換へるとか何とかしてやり繰りして居る状態であります。勿論ゴムも困る、しかし之は日本から相當量の援助を期待して居ります。

〔十〕

次の問題は動力資源である處の燃料であります。この石油は一ヶ年一千三百萬噸位であります、少く見まして一千萬噸位で、どうして斯の様に三百萬噸の見方の相違が起るかと言ふと、ルーマニヤの石油産額は一年六百乃至七百萬噸位であります。が、ドナウの水運を利用してルーマニヤの石油を輸送してドイツ國內に持つて参りますのに、二分の一持つて來る可能性があるとすると石油の生産量一千萬噸になります。この水運が最もよく使はれた場合は二百萬噸位をドイツに輸送する可能性があると假定致しますならば一千三百萬噸位、ドナウがどれだけのものを運ぶかといふことは外觀からは判らないのであります。一、二千萬噸か一千三百萬噸位がドイツの石油量であります。之はドイツ空軍を賄ふのは問題ないのであります。が、ドイツ陸軍を賄ふには之の石油では非常に不足であります。それはドイツ陸軍は日本と違ひまして後方輸送の輜重全部を機械化したからであります。輜馬輜重を止めまして全部自動車輜重と致しました結果之に使ふ處の石油量は莫大であります。之は對佛戦争の時西部戦線に於ては自動車道路が四通八達

して居つて石油の使ひ方も少い、しかし東部戦線は道路の悪い處に自動車で物を運ばなければならなくなりましたのでその石油の消費量は實に多いのであります。のみならず舊大戦後から今次大戦に至る間、ロシアとドイツとの間にポーランドといふ國があつたことはドイツの爲に非常に害を來して居る、どういふことかと申しますとこの國の交通網は全部ワルソーから放射狀に出て居る譯であります。

ですからルーマニヤの石油を東部戦線に汽車で運ぶと致しますと、ベルリン近く迄汽車で持つて來てワルソーに行つてもう一度これを持つて歸らなければならぬことになる、即ち鐵道網がドイツ國內を中心として戦線へ放射狀に出て居らないのであります。だから軍隊輸送の如き「ルーマニヤ」からは鐵道輸送するより、徒步行軍の方が早いのであります。他面自動車によつて石油を運ぶとなりましたならば運ぶ石油の二分の一近いものは歸り途の豫備としなければならぬ、その爲に自動車輻重による燃料輸送といふことはドイツの東部戦線に對しては非常に不利な状態であります。従つて石油といふ問題から行きましたならば必ずしも十分にとは云へないのであります。それが昨年夏期攻勢に於てマイコップをとりコーカサスをとりたかつた最大の理由であります。

生産施設といふ點に於てはどうかと申しますとドイツ國內に於ては勿論逐次増設致して居りますがドイツの占領致しました周圍の國は孰れも小工業國でその施設が獨逸に益する所多くチェコスロバキヤを始めフランス、ポーランド等之等のものは一〇〇%現在利用して居りますから相當施設の増大になつて居ります。

〔十一〕

次に戦時經濟のもう一つは勞力であります。先づ人間の消耗状態から考へて見る事にします。所謂ドイツの戦場に

於ける戦死、戦傷者は一體どの位あるか、之は非常に難かしい事で、ドイツの發表のみをその儘鵜呑みには出來ない譯であります。舊大戦の状態から申しますと第一次歐洲大戦當時のドイツの消耗は戦死二百萬、負傷者五百七十萬、捕虜八十萬行方不明十萬、合計八百六十萬の消耗でありました。現大戦に於けるドイツ側の消耗は二百萬ばかりで少しと思ふのでありますが、まづ三、四百萬はあつたと假定しても舊大戦の二分の一にも足りない消耗であります。之に對して、昨年末外國勞力が約三百萬入つて居ります。即ち人間の消耗を補つて尙餘りある外國勞力が入つて居るわけであります。従つて第一線に送り出した將兵の勞力を補ふことさへ何とかすれば生産力としての勞力は餘り困らない譯であります。この爲にはどういふことをしたかと申しますと男を女子に置き換へた譯であります。

開戦時に於けるドイツの産業勞力は二千四百五十萬、之が昨年には二千五百萬でありまして、總數に於ては戦前と同様の數を保つて居ります。併しその素質は戦前に於ては熟練工が相當多かつたのであります。その熟練工は殆どなくなつて、そして素質の悪い女竝に外國雇傭の勞力となつて居る譯であります。之等の素質の悪い勞力もこれまで戦前同様の生産力を擧げ、更に戦前以上に生産力を増強しなければならぬ。之は一に生産技術者の肩に掛つて居る譯であります。ドイツの生産技術者の活動は實に目覺しいのであります。從來は熟練工でなければ出來なかつたやうな仕事も全部三週間なり四週間教育した女でも出來るやうに、仕事のやり方を變へました。之は實に目覺ましい生産技術者の活動と思ふのであります。從來熟練工でなければ出來なかつた仕事を分解して一つ／＼の仕事とし所謂仕事を單純化し分解した譯であります。さうすると一つの仕事も數回の訓練で女子供でも出來るやうになり、熟練工を使はないでも物が作れる、之をやりました爲に生産能力を保持し、戦前熟練工を使つて居つた時と大同小異

で低下してないと思ひます。又企業に對しては所謂技術の公開交流をやり生産品種の單純化をやつた譯であります。之れが爲めには同一軍需品を生産して居る、全製作所を合せて一つの生産集團にしたのであります。そしてこの生産集團には一名の官選生産指導者がありまして、之れは官吏でも軍人でもなく、同一製品を生産して居る製作所の中で國家認識或は時局の認識の優秀な生産技術者を任命する譯であります。この生産指導者は生産の全權指導者として社長の上に立つて生産の計畫や、實施の全部を指導するわけであります。しかし各製作所の經濟的な問題には全然觸れないでそれは従來通り各會社でやるのであります。

之を極言せば此の組織は生産文を管理してそれに伴ふ經濟的關係は少しも管理してないのであります。この生産指導者は法律で技術の公開交流を指導する權限を與へられ、従つてその隸下の製作所や最善の生産能率を擧げて居る生産の水準迄全製作の生産能率を向上する様に指導する譯であります。

〔十一〕

斯くの如き組織により相當生産力は上つて居り尤も數字は戰爭で出ませんがある程度生産が增強されることは事實であります。又敵の爆撃に依る生産力の低下は何うかと謂ふと獨逸は小型製作所の分散制を採用して居りますから大なる影響はない様であります、即ちナチ政權以前からあるクルップ、シーメンスといふやうな大會社は元々自由主義經濟機構によつて作つた大型製作所でありまして、所謂、ナチになつてから作つた製作所は全部小型でありまして、一名の陣頭指揮者の指揮し得る限度であり、その限度を越す大きなものを作つて居りません。例を擧げて見ますと工場は五千人乃至六千人程度のものが最も多く、二交替になりますとその倍であります、之を都市に集中しないで各所

に分散した譯であります。ドイツに於ては現在食糧品の配給は圓滑に行つて居りますけれども、この製作所分散が非常に役立つて居ります、もしもドイツに於て米英のやうであつたならば全人口の一〇%近いものがベルリンに集つて居るといふことになれば食糧の配給輸送が大問題となつたと考へられます。

更に又之等小型製作所の生産内容は生産品種を減少し之を徹底して居ります。例へば飛行機で申しますと一製作所一機種制とし之れが徹底した所では一製作所では胴體丈、或は翼丈作らせると謂ふ状態でありまして斯くの如く生産品種の減少は生産數量の増大となり結局に於て生産は非常に增強されました。

さういふ状態でありますから國內の軍需品の生産といふ點から見まして、ドイツは差當つて困るといふことは考へられません。

〔十三〕

更に經濟問題から見ました場合所謂、歳入歳出關係がどうなつて居るか、之はドイツ政府の發表でありますけれども信用は出來ないと思ひますが、歳入歳出状態は非常に堅實な状態であります。一九四一年の歳出は九百三十億であります、之を賄つて居る經常歳入は二分の一の四百五十億、この内譯は租稅三百二十億、その他雜收入百三十億、不足分の四百五十億は公債で賄つて居る譯であります。四二年はどうであるかと申しますと、歳出一千億でありまして經常歳入五百億、内譯は租稅三百五十億、雜收入百五十億、残り五百億はやはり公債で賄つて居る恰好であります。之を比率的に見ました場合歳出の五〇%は公債でありまして、三五%は租稅、一五%は雜收入といふ恰好で、かういふ恰好でありますから若干違ひはあると假定致しましても、財政的に見ました場合相當堅實な財政と思ひます。

更に公債發行額は戦争になつて發行した總額は昨年末に於て一千二百八十億でありますが、之は國民所得が一千百億位ありますから國民一ヶ年の所得とトン／＼より一寸上位でありまして、この點から見ましてもまづ堅實な財政状態を保つて居ると思はれるのであります。

更に通貨状態はどうなつて居るかと申しますと戦前一九三八年八月の通貨は八十億でありました、それが昨年八月には二百七億となつて居りまして、一三七%増えて居り、之はインフレの傾向を否定することは出来ない通貨の増大は一面に於ては明らかに貯蓄を奨励しては居りますが、貯蓄額は餘り増えては居らない。開戦前の貯蓄額は百億でありまして、それが昨年の總計に於ては六百五十億となつて居り、その差額は五百五十億程度であります。

之等の點から見ましても通貨の状態から見ましても、若干インフレの傾向になつて居ることは否定出来ませんが、之はその他の統制力によりましてインフレにはならない、勿論美術品、骨董品等は素晴らしいインフレで戦前の二十倍位の價格であります。さういふ點から見ますと通貨の増大がインフレ傾向を助長して居ることは事實であります。生活必需の物は統制によつて抑へて居るのでインフレの傾向は現れて居らないのであります。

以上のことを通観して見ますとドイツの國內そのものはそんなに弱つては居らないといふ結論になると思ふのであります。勿論外観的なことを見ました場合には、例へば出征兵士が出てゆく場合ドイツ國民は日本のやうに決して歡送してはやらない。出征兵士は小さなトランクを提げてとぼ／＼と出てゆく、かういふやうなことは國民性の相違であり、習慣の相違でありまして、それによつて決してドイツ國民の士氣が沮喪して居るとは云へないと思ふのであります。或は負傷兵が歸つて來たとか鐵道で輸送される場合でも日本程歡送しては居らない、或は野戦病院や國內の病

に慰問にゆくといふことも日本のやうには實施されて居らないのですが、歡待して居らないから士氣が沮喪して居るとは云へない。又ドイツの戦死者はその遺骨を現地に於て埋葬する、かういふ點から云へば觀方によつてはドイツのやり方はけしからん國民の士氣が沮喪して居るのではないかと云へない共限りませんが、之は習慣、國民性の相違でありまして、かういふ風なことで國內に厭戦氣分があり士氣が沮喪して居るといふことは云へないと思ふのであります。或は又各都市に於て男女が戯れて居るとか、映畫で手を繋いで居るとか、軍人が正服を着て女と手を繋いで居るとか、さういふことで元氣がない、士氣が沮喪して居るとか風紀が頹廢したといふやうな觀方は當らない。之また國民性の相違であると思ふのであります。實際に國民の士氣といふ點から申しましたならば、所謂士氣は旺盛でありまして、勿論女の中には戦争は嫌だといふ者も居りますが、それでは負けても良いかといふ點に一步ゆきますと、この戦争に負けては今以上に苦しい、この前の敗戦の結果はもつと苦しかつたといふことをよく知つて居るので、この戦争は負けられない、のみならずユダヤ人を之丈壓迫したのだから今度の戦争に負けたならばその報復はどんなことになるか判らない、右に嚙りついてもこの戦争は勝たなければならぬ、ドイツ側が勝利になつてこの戦争が終ること希望するが、負ける位なら幾らでもやるといふ決意をして居るやうな状態から見まして、ドイツ國內に於ける所謂厭戦氣分、非戦氣分、國民士氣が沮喪するといふやうな状態は全然見受けられない。之等のことを綜合して考へまして、勿論戦局は一勝一敗を繰り返すと思ひますが、大局から見ました場合ドイツは逐次自分の勢力圏内に於て不敗態勢を整へ長期戦に堪へるだらうと考へます。(終り)

昭和十八年九月十五日印刷
昭和十八年九月二十日發行

發行者 東京都神田區駿河臺二ノ一
東亞研究所內
伊藤 斌

印刷人 東京都京橋區京橋二ノ一三
松崎 才一郎

印刷所 東京都京橋區京橋二ノ一三
東亞印刷株式會社
(東東五五)

發行所 東京都神田區駿河臺二ノ一
財團法人
東亞研究所



